

国絵図ニュース 23号

第25回国絵図研究会東北大学付属図書館大会のお知らせ

今回の国絵図研究会は、当初長崎県立図書館、次に臼杵市立図書館、さらに東北大学狩野文庫と三転しました。いずれも事務局の不手際です。お許し下さい。それにしても未だ、大型の国絵図を見るのは至難のわざとすることがよくわかりました。ともあれ、今回の大会は、小野寺代表のお世話を持ちまして東北大学付属図書館で開催します。研究発表も盛りだくさんです。ふるってご参加下さい。

記

場所：東北大学付属図書館 宮城県仙台市青葉区川内 27-1 Tel 022-795-5949

日程：3月26日（木）午後3時～5時 研究発表、夜、懇親会
東北大学附属図書館の会議室

小田匡保：ライデン大学所蔵の大和国絵図について

野積正吉：ライデン大学所蔵の佐渡国絵図について

尾崎久美子：陸奥国における天保国絵図作成事業の展開

懇親会：6時半～仙台市国分町「三吉」

3月27日（金）9時半～16時まで 会議室で狩野文庫の閲覧・調査

東北大学附属図書館ホームページの狩野文庫より、閲覧を希望する絵図がありましたら、3月10日までに小野寺メールアドレス（onodera@mx.ibaraki.ac.jp）へお申し込み下さい。

■ 宿泊は各自でお探し下さい。

同封のはがきに必要事項をご記入の上、3月2日必着でお知らせ下さい。

伊能忠敬記念館所蔵の国絵図群

小野寺 淳・青木幸代・橋本暁子・横山貴史

国絵図研究会第14回例会は、2001年2月4日・5日、はじめて伊能忠敬記念館で開催させていただいた。14回例会の開催案内を掲載した国絵図ニュース9号（2000年12月15日発行）に、研究余滴として礒永和貴氏は「伊能忠敬記念館所蔵の国絵図小考」を寄せ、伊能忠敬の書写と考える国絵図熟覧の必要性を提起されている。ここで礒永和貴氏が紹介したのは、第八次測量で九州の肥前国島原から、忠敬が若年寄堀田正敦の家臣山田綱治郎に宛てた文化9年（1812）11月8日の書簡である。その文面によれば、九州、壱岐、対馬はもちろんのこと、帰路に通行する長門、周防、安芸、美作の写図は持参しているが、出雲、伯耆、因幡の3か国の絵図が無いとため、忠敬は山田に対して、門人の桜井秀蔵を貴宅へ遣わすので、来年の2～3月中に青木善兵衛に書写させて欲しいと依頼したことが記されている。すると、若年寄の家臣山田は出雲、伯耆、因幡国絵図を自宅に所持、あるいは借り置くことが可能であったことになる。

また、今回の第24回大会において礒永氏は、「伊能忠敬記念館に所蔵される国絵図の由来について」を報告し、大谷亮吉編著『伊能忠敬』634頁所載の文書から、この出雲・伯耆・因幡国絵図が中川飛驒守から堀田が借用し、書写させたことを明らかにした。出雲・伯耆・因幡国絵図は、現在内閣文庫に所蔵される中川本の書写であるが、残念ながら伊能忠敬記念館には所蔵されていない。

さらに、伊能忠敬記念館で礒永氏が川村博忠氏と周防・長門・肥後国絵図を閲覧し、これらは正保国絵図の約3分の1の縮図と記載している。このことから、山田綱治郎が自宅で桜井秀蔵に写させた3か国の国絵図もまた正保国絵図の縮写図と想定されている。

14回例会の原本調査を踏まえ、参加者の一人佐々木克哉氏は、国絵図ニュース11号（2002年4月20日発行）に、伊能忠敬記念館所蔵の「下総国絵図」は献上図の6寸1里ではなく、半縮尺の3寸1里であること、元禄図に表現されていない木下街道や佐原一銚子間の街道を表現することなどを指摘した。また、寛政5年（1793）5月に松平定信が地理糺絵図御出役に廻村先で馬3疋の無賃使役を許可した文書を転記していることを紹介した。さらに、寛政5年3月25日付けの松平定信が久世広周宛の書状を紹介し、異国船到来の危機による地図の必要性からすると、定信は元禄国絵図では情報量が不足するとの認識を持っていたと指摘する。すなわち、伊能忠敬記念館所蔵の下総国絵図は、寛政期の地理糺絵図の調査で利用された元禄図の写本と考えると述べている。

しかし、14回例会で閲覧させていただいたのは、伊能忠敬が写させたと考えられる国絵図の一部であり、全容はいまだ判然とはしていなかった。この

成果を踏まえ、今回の2008年8月31日・9月1日に開催した例会では、まず伊能忠敬記念館で所蔵する国絵図群をまとめて拝見し、緑色・青色・薄青・茶色・白色の表紙をつけた5種類の絵図に分類されていることを確認した。

緑色表紙は24点、青色表紙は34点、薄青表紙は4点、茶色表紙は2点、白色表紙は10点であり、計74点にのぼる(次頁表1参照)。このうち、以下に記すように、江戸幕府撰国絵図の写図と考えられるのは、緑色・青色・薄青表紙の絵図62点である。

緑色表紙は所蔵番号107に分類されており、九州・中国地方の国絵図であった。礒永氏がすでに指摘したように、緑色表紙は、第八次測量に際して若年寄堀田家所蔵正保系国絵図を調査前に写した国絵図群(薩摩乾坤2・大隈乾坤2・日向乾坤2・肥前上下2・肥前国五島・肥後上下2・豊前・豊後・筑前天地人3・筑後・壱岐・対馬・長門乾坤2・周防・安芸・美作)と考えられる。桜井秀蔵が写させた出雲・伯耆・因幡は含まれていない。

青色表紙は最も点数が多く、所蔵番号108に分類されており、「志摩国全図」「三河国図」「尾張国全図」などのほか、多くは東日本の国絵図である。佐々木克哉氏に取り上げた「下総国絵図」は、この青色表紙の国絵図の一つであるが、今回の調査でも34点すべてを確認するまでの時間がなかったため、青色表紙が寛政期の地理糺絵図の調査で利用された元禄図の写本と断定することはできない。

薄青表紙は「上総国図」「上総国全図」「相模国」「上野国」の4点であり、正保系の国絵図の写本と思われる。茶色表紙は出雲国と土佐国の海岸線の実測図と思われ、国絵図群の中に含まれては入るが、国絵図とは異なっている。白色表紙は10点にまとめられているが、実際には14点であり、街道図の一種と考えられる。

上記の伊能忠敬記念館所蔵国絵図とライデン大学所蔵シーボルト収集国絵図とを対照すると、志摩国絵図、尾張国絵図、三河国絵図、美作国絵図の4点が対応することを確認した。これらの4点の表現様式の対応関係などは今後の研究課題であるが、一定の成果を得ることができたといえよう。なお今回の調査で撮影した伊能忠敬記念館所蔵国絵図のリストは、以下の通りである。本調査は科学研究費基盤研究(B)「ライデン大学所蔵シーボルト国絵図の地図史研究」(代表：小野寺淳)によって撮影を実施した。

〔謝辞〕伊能忠敬記念館で国絵図を所蔵されていることは、目録が公刊されていない現在では、一般には知られていない。国絵図研究会では伊能忠敬記念館のご支援により研究を進めており、ここに調査報告をし、心より感謝の意を表します。

**表 1 写真撮影した伊能忠敬記念
館所蔵国絵図のリスト**

図名	緑色	青色	白色	薄青	図名	緑色	青色	白色	薄青
志摩国		○			肥前国五島	○			
尾張国		○			図 全				
三河国		○			肥前国図	○			
美作国	○				上				
香岐国図	○				肥前国図	○			
全					下				
対馬国	○				豊後国図	○			
全					豊前国図	○			
薩摩国図	○				筑後国図	○			
乾	○				筑前国図	○			
薩摩国図	○				天				
坤	○				筑前国図	○			
大隅国図	○				地				
乾	○				筑前国図	○			
大隅国図	○				人				
坤	○				周防国図	○			
日向国図	○				長門国図	○			
乾	○				乾				
日向国図	○				長門国図	○			
坤	○				坤				
安芸国図	○				肥後国 街			○	
					道絵図				
上総国図				○	肥後国図	○			
上総国全				○	上				
図					肥後国図	○			
					下				

注) 表紙の色をもとに色分けした

本年度の会費を徴収します。

国絵図研究会は、皆様の会費で運営しております。ご協力ください。

一般 2,000円 学生・院生 1,000円です

※ 次回の研究会に参加された方は、磯永にお渡し下さい。

■世の中は不況の真っ只中です。博物館や図書館などの文化施設も随分風当たりが強く吹いています。何とかならないものではないでしょうか。♥常時原稿を募集いたします。メールで送っていただきますと大変助かります。▲今回は、小野寺 淳・青木幸代・橋本暁子・横山貴史先生に第24回大会における成果のご報告を賜りました。ありがとうございました。今後もできる限り大会の成果をまとめていきたいと考えています。皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ニュース編集担当・・磯永和貴 〒751-0807 下関市 一の宮学園町 2-1
東亜大学人間科学部内 電話 0832-51-5177 E-mail : isonaga@toua-u.ac.jp